

時間割コード	G2B45606	開講年度	2026				
授業題目	テレビのメディアリテラシー（テレビ信州参与ゼミ）				担当教員	伊東 秀一	
英文授業名	Seminar: Media literacy about television						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限	対象学生	全
講義室	共通教育 2 3 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学DP						
	的確に情報を収集し、理解し、発信する力				演習を通じ、個々が情報の取捨選択基準と表現力（リテラシー）を身につけること。		
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働、防災減災、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース						
(4)授業の概要	テレビ・ジャーナリズムに関わる現役の取材・制作者が、現在進行形の社会事象等を題材にメディアへの接し方と情報の取捨選択に関する考え方を伝える。 内容によって各専門分野に携わるテレビ制作の専門職が、各々の立場から実践的な情報論を伝えることもある。						
(5)授業のキーワード	メディアとジャーナリズム，実務経験，グループワーク，レポートのフィードバック						
(6)授業計画	第1週 序論：TVジャーナリズムを学ぶ理由 第2週 原点：なぜメディアは間違ったのか 第3週 TV・新聞比較：報道機関と言論機関 第4週 編集論：NEWSの捨て方・拾い方（講師：テレビニュース編集長） 第5週 編集論：ドキュメンタリーという物語（講師：ドキュメンタリー制作者） 第6週 放送言語：TVキャスターの言語表現（講師：ニュースキャスター） 第7週 メディア言語：報道×文学×SNS 第8週 実践：事実を拾う／ニュース速報と記者会見 第9週 Fact Check：SNS時代の選挙報道 第10週 Fact Check：都市伝説・陰謀論とTVニュース 第11週 Data Science：NEWSの数字を「見える化」する 第12週 Data Science：仮説の数字を映像化する 第13週 実践：言葉のない伝達はどこまで可能か 第14週 産業論：視聴率をどう読むか（講師：編成担当者） 第15週 結び：いま求められるリテラシーとは						
(7)成績評価の方法	中間・期末の計2回のレポート提出と、演習への参加態度などを総合的に評価する。						
(8)成績評価の基準	中間および期末レポート、ワークショップにおける成果物作成等では、以下のように達成目標の水準が設定され、評価される。 ()問題の設定が適切であり、()その問題背景を説明出来ており、()その問題にどのような課題があるかを指摘できており、()それらの課題に対して既存の学説等が提示する解決方法を適切に把握できており、()その上で自分の見解を提示出来ており、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、上記()～()の3項目まで満たすことが標準である。4項目まで満たすと「やや上」、5項目まですべて満たした時には「かなり上」または「卓越」と判定される。						
(9)事前事後学習の内容	毎回の復習が必須であり、それらの成果を中間、期末の両レポートに反映することが求められる。 また、適宜時間外の調査や資料収集が必要となる。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学修が必要となります。						
(10)履修上の注意	講義のほかに実践、ワークショップを伴う演習のため、個々の発想や視点、時事への関心も求められる。日頃のTVニュースや新聞、時事関連書籍等に積極的にふれ、SNSやネットニュース等と比較考量する視点を日常的に育てる習慣を持って欲しい。						
(11)質問、相談への対応	講義終了後、状況に応じては講義中に質疑応答の時間を設けて回答する。また講師の本務(テレビ信州)用メールアドレスを公開、メールでも個別に対応可能とする。						
(12)授業への出席	原則、すべての出席を要する。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に記載されている方法により補充を受けるための申請を行うこと。						
【教科書】	特段の指定なし。						
【参考書】	講義、演習の内容に沿って、必要なものを適宜指示する。						